

QAW Ver.3.3 正誤表

2007年6月27日 クオリティ株式会社

マニュアルの内容に誤り、追記事項があります。下記、正誤対象表をご覧ください。

■ 導入編

ページ	見出し	誤		正
New2	—	Intel® Active Management Technology	→	Intel® Active Management Technology
New11	I 2-1 サーバ・コンソール表内2行目「iAMT」の説明	intel Active Management Technology	→	intel Active Management Technology
New29	III 2-1 シリアル番号の登録、認証鍵の作成、管理者情報の登録	手順2の下に右のヒントを追加	→	<p>ヒント リモートデスクトップを利用してQNDサーバを操作している場合</p> <p>リモートデスクトップを利用し、QNDサーバPCを操作している場合は、ここで、ID/パスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。初期値である「ID：administrator」、「パスワード：Password」を入力し、ログインしてください。</p>
New53	マスターサーバからスレーブサーバへ	<p>次のデータが転送されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ インベントリ ▶ タスクログ ▶ タスク設定 ▶ エージェントモジュール ▶ オプション設定 ▶ 画像ファイル (アイコン等) 	→	<p>次のデータが転送されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ タスク設定 ▶ エージェントモジュール ▶ オプション設定 ▶ 画像ファイル (アイコン等)
New75	VI 2-4 タスクによるQPオプションのインストール表内8行目「非常駐オプション」の説明	右の記述を追加	→	<p>※非常駐オプションを選択した場合、「インストール内容」では、[QPオプションのみインストール]、[QPオプションとRCオプションをインストール] が選択できます。</p> <p>[QPオプションのみインストール] を選択した場合は、非常駐QPオプションのみがインストールされ、[QPオプションとRCオプションをインストール] を選択した場合は、非常駐QPオプションと常駐モードのRCオプションがインストールされます。</p>
New76	VI 2-4 タスクによるQPオプションのインストール	手順15の下に右の注意を追加	→	<p>注意 初回ブル実行時</p> <p>初めてタスクをブル実行する場合は、必ずWindowsディレクトリに書き込み権限があるアカウントでログオンしてください。</p>

ページ	見出し	誤		正
New102	ヒント 削除されないファイル	(Windowsディレクトリ) ¥QNDHostファイル (QNDのホストIDを記録するファイル) は、どのユーティリティプログラムでも削除されません。	→	(Windowsディレクトリ) ¥QNDHostファイル (QNDのホストIDを記録するファイル) は、コマンドラインオプション「-f」をつけた「UNALL.EXE」以外のユーティリティプログラムでは、削除されません。
New109	バージョンアップ	右の注意を追加	→	注意 BizPack-Vをインストールしている場合 QND Ver. 9.3からは、BizPack-VがQNDサーバと同時にインストールされます。BizPack-V Ver. 3.1以前をインストールしている場合は、まずアンインストールしておいてください。
113	VIII 2-1 マスターサーバのバージョンアップ 手順13 の後	右の手順を追加	→	手順14 「データバックアップ」(P.110)でバックアップしておいたファイルのうち、次の3つを元の場所にコピーします。 <ul style="list-style-type: none"> • ¥QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv • ¥QNDPlus¥etc¥multicast.ini • C:¥WINNT¥QAWLauncher.ini
113	VIII 2-1 マスターサーバのバージョンアップ 手順13 の後	右の手順を追加	→	手順15 バージョンアップを行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ります。QIVコンソールを起動して、「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元の設定に戻します。 「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」については、『QIV』「IV 2-2 CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」を参照してください。
New122	VIII 2-4 ホストのバージョンアップ	右の注意を追加	→	注意 QND Ver.8.7 SP2からのバージョンアップ QND Ver. 8.7 SP2からバージョンアップする場合、QNDサーバがQND Ver. 9.1 SP1の時点で、クライアントプログラムもQND Ver. 9.1 SP1にバージョンアップさせてください。 QNDサーバのみをVer. 9.3にバージョンアップさせた場合、QND Ver. 8.7 SP2とQND Ver. 9.3の認証鍵の暗号化形式が異なるため、タスクのプッシュ実行が行えなくなります。
136	IX 4-1 旧マスターサーバでの準備 手順4 の後	右の手順を追加	→	手順5 Directoryサーバのインストールディレクトリ (デフォルトの場合は、”(Windowsディレクトリ) ¥ApInServ”)をコピーし、別の場所に保管します。

ページ	見出し	誤		正
137	IX 4-2 新マスターサーバでのバージョンアップ手順5	右の記述を追加	→	また、Directoryサーバのインストールディレクトリ（デフォルトの場合は、“(Windowsディレクトリ)¥ApInServ”)を、旧サーバでバックアップしたApInServディレクトリと置き換えます。
137	IX 4-2 新マスターサーバでのバージョンアップ手順11 の後	右の手順を追加	→	手順12 「データバックアップ」(P.110)でバックアップしておいたファイルのうち、次の2つを元の場所にコピーします。 <ul style="list-style-type: none"> • ¥QNDPlus¥bin¥Rule7.csv • ¥QNDPlus¥etc¥multicast.ini • C:¥WINNT¥QAWLauncher.ini
137	IX 4-2 新マスターサーバでのバージョンアップ手順11 の後	右の手順を追加	→	手順13 バージョンアップを行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ります。QIVコンソールを起動して、「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元の設定に戻します。 「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」については、『QIV』「IV 2-2 CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」を参照してください。

■ 運用編

ページ	見出し	誤		正
New2	—	Intel® Active Management Technology	→	Intel® Active Management Technology
New39	I 4-3 プル実行	右の注意を追加	→	注意 初回プル実行時 初めてタスクをプル実行する場合は、必ずWindowsディレクトリに書き込み権限があるアカウントでログオンしてください。
45	エージェント起動メニューの設定 手順6	右の注意を追加	→	注意 グループ/フィルタの指定 起動定義情報の表示対象とするグループ/フィルタを、必ず指定してください。グループ/フィルタを指定していない場合は、どのホストにも表示されません。
New62	I 5. スタンドアロンPCのインベントリ収集	収集したインベントリは、リムーバブルメディア/ファイルサーバ/電子メール/FTPのいずれかを利用してQNDサーバに取り込むことができます。	→	収集したインベントリは、リムーバブルメディア/ファイルサーバ/電子メール/FTP/インベントリ代理転送のいずれかを利用してQNDサーバに取り込むことができます。

ページ	見出し	誤		正
New103	インポートの準備	ただし、任意設定インベントリ取得の設定を行ったタスクを実行する方法では、タスク実行時にQNDホスト側で、インベントリの値を入力する画面が表示されるため、ユーザのオペレーションが必要となります。	→	ただし、任意設定インベントリ取得の設定を行ったタスクを実行する方法では、タスク実行時にQNDホスト側で、インベントリの値を入力する画面が表示されるため、ユーザのオペレーションが必要となります。
New106	タスク実行による項目名の設定 管理者側の操作	ヒント ホストが任意設定インベントリの値を入力した場合 …「項目名」さえ正しく設定できていれば、値はCSVファイルからのインポートによって上書きされます。	→	ヒント ホストが任意設定インベントリの値を入力した場合 …「項目名」さえ正しく設定できていれば、値はCSVファイルからのインポートによって上書きされます。
New124	I 12-3 ホスト一覧の情報が正しく表示されないとき	注意 復元される情報 ▶ ホスト情報ファイル (i.ファイル) を全て正しい状態にするためには、ホストに対してインベントリの再収集を行ってください。	→	注意 復元される情報 ▶ ホスト情報ファイル (i.ファイル) をすべて正しい状態にするためには、ホストに対してインベントリの再収集を行ってください。

■ リファレンス

ページ	見出し	誤		正
New2	—	Intel® Active Management Technology	→	Intel® Active Management Technology
18	I 1-13 エージェント起動メニューの設定 表内11行目「グループ/フィルタの追加」の説明	右の記述を追加	→	※グループ/フィルタの指定は必須です。
19	グループ/フィルタの選択	右の注意を追加	→	注意 グループ/フィルタの指定 起動定義情報の表示対象とするグループ/フィルタを、必ず指定してください。グループ/フィルタを指定していない場合は、どのホストにも表示されません。
New95	II 3. SU/QP/RCオプション 表内4行目「QPオプションのみインストール」の説明	オンにすると、ホストにはQPオプションのみがインストールされます。	→	オンにすると、ホストにはQPオプション（常駐/非常駐）のみがインストールされます。
New95	II 3. SU/QP/RCオプション 表内5行目「QPオプションとRCオプションをインストール」の説明	オンにすると、ホストにはQPオプション、RCオプションがともにインストールされます。RCオプションは常駐モードでインストールされます。	→	オンにすると、ホストにはQPオプション（常駐/非常駐）、RCオプション（常駐）がともにインストールされます。
New95	II 3. SU/QP/RCオプション 表内8行目「QPオプション動作時にインベントリ表示用アイコンを表示」の説明	右の記述を追加	→	すでにQPオプションがインストールされていて、インベントリ表示用アイコンがタスクトレイに表示されているホストに対し、この項目のチェックを外したタスクを実行すると、インベントリ表示用アイコンは非表示になります。また、その場合、非表示になるタイミングは、ユーザのログオフ後です。

ページ	見出し	誤		正
New161	Ⅲ 5-1 「QNDサーバアクセスパスワードの設定」 表内7行目「リモートコントロール中にダイアログを表示」の説明	[リモートコントロール中にダイアログ]にチェックを入れているアカウントで…	→	[リモートコントロール中にダイアログを表示]にチェックを入れているアカウントで…
New184	QNDホスト利用時に使用するポート番号	右の行を表に追加	→	接続元：マスターサーバ・スレーブサーバ 接続先：RCオプション 接続先ポート番号：1024～5000 通信種別：UDP 説明：QNDサーバからの返信を受けるポート
New184	QNDホスト利用時に使用するポート番号	右の行を表に追加	→	接続元：RCコンソール 接続先：RCオプション 接続先ポート番号：1024～5000 通信種別：UDP 説明：RCコンソールからの返信を受けるポート

■ QIV

ページ	見出し	誤		正
New107	Ⅶ 4-2 CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する	手順3 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。	→	手順3 上記設定部分のすべての行の左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。
New108	Ⅶ 4-3 カスタム台帳の定期CSV出力	手順9 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。	→	手順9 上記設定部分のすべての行の左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。
New110	Ⅶ 4-4 1つの台帳から2つのCSVファイルを出力する	手順5 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。	→	手順5 上記設定部分のすべての行の左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。

■ リモートコントロール

ページ	見出し	誤		正
New24	バージョンアップ	注意 ▶ タスクを利用したRCオプションのバージョンアップを行った場合は、インストール後RCホストを必ず再起動してください。再起動後にサービスが置換されます。	→	注意 ▶ タスクを利用したRCオプションのバージョンアップを行った場合は、インストール後RCホストを必ず再起動してください。再起動後にファイルが置換されます。

■ QND/QAW –Security Alert Ver.1.0–

ページ	見出し	誤		正
10	ポリシチェック対象ホスト	※64bit版Windows、UNIX、Macintosh、SNMPホストは、対象外となります。	→	※64bit版Windows、UNIX、Macintosh、SNMPホストは、未処理として扱われます。 これらのホストをセキュリティポリシチェックの対象外ホストに設定する方法については、「4-7. 集計対象外ホストを設定する」(P.56)を参照してください。
12	SQL Server導入前の準備をする表 [Windows Server 2003] の1行目	MDAC 2.8 SP1 「MDAC 2.8 SP1のインストール」(P.13)を参照	→	削除 (Windows Server 2003の場合、MDAC 2.8 SP1のインストールは必要ありません。)
62	5-2 セキュリティレポート情報を確認する手順4下の表	表内4行目に右の項目を追加	→	未処理 セキュリティポリシチェックが実行されていないホストの台数

■ QND/QAW –セキュリティ運用編–

ページ	見出し	誤		正
New 17	3-2 構成ファイルの配置	手順1 「qbsa2」ディレクトリが表示されます。「qbsa2」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。(ここでは、「qbsa2」ディレクトリを「インストールディレクトリ」として利用しています。)	→	手順1 「qbsa2.0.1」ディレクトリが表示されます。「qbsa2.0.1」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。(ここでは、「qbsa2.0.1」ディレクトリを「インストールディレクトリ」として利用しています。)
New 17	3-2 構成ファイルの配置	手順3 ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2」ディレクトリ内の ~以下略~	→	手順3 ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2.0.1」ディレクトリ内の ~以下略~
New 17	3-2 構成ファイルの配置	手順4 「qbsa2」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。	→	手順4 「qbsa2.0.1」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。
New 55	4-2 構成ファイルの配置	手順1 「qbsa2」ディレクトリが表示されます。「qbsa2」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。	→	手順1 「qbsa2.0.1」ディレクトリが表示されます。「qbsa2.0.1」ディレクトリには、脆弱性診断ツールプログラムを実行するために必要なファイルが格納されています。

ページ	見出し	誤		正
New55	4-2 構成ファイルの配置	手順3 ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2」ディレクトリ内の ～以下略～	→	手順3 ダウンロードしたMBSAインストールパッケージを、自己解凍ファイル展開後、「qbsa2.0.1」ディレクトリ内の ～以下略～
New55	4-2 構成ファイルの配置	手順4 「qbsa2」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。	→	手順4 「qbsa2.0.1」ディレクトリをファイルサーバ上、またはQNDサーバ上に移動します。